



建学の精神

玉川聖学院の教育理念は、「一人一人が神と人とに仕えるために創造されたかけがえのない唯一の存在である」という聖書の教えに基づいたものです。

生徒たちは玉川聖学院で自分自身を発見し、それを受け入れ成長させていくことを学びます。

同時に他人を尊敬し、ともに協力し合うことも学びます。

玉川聖学院はこの理念に基づき、心を尽くして「心のこもった教育」を提供できるように努めています。



玉川聖学院 校章・マーク
スクールモットーである「神に対する信仰、事に対する希望、人に対する愛」を撫子の三枚の花弁に表わしています。

学校法人 玉川聖学院

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢7-11-22

TEL : 03-3702-4141 FAX : 03-3702-8002



創立

矢島宇吉によって1908年(明治41)始められた、日本における神の教会運動は、拠点とした武蔵境の地に広大な敷地が与えられ、諸設備も完備していましたが、都心から遠く伝道の中心地としては不便であったため、現・本郷追分町に本拠地を移しました。その後、矢島による練馬教会(現・練馬神の教会)、アクシー・ボライソ宣教師による西ヶ原教会、アダム・W・ミラー宣教師による宮仲神の教会(のちの豊島神の教会。現・日本基督教団戸山教会)がつくられ、1928年(昭和3)本郷神の教会は玉川聖学院の初代院長となった谷口茂寿が引き継ぎました。谷口は大阪で生まれ、組合派の大阪天満教会にて受洗。京都帝国大学(当時)在学中に内村鑑三主筆の『聖書の研究』に触れ、内村の教えを受けたいと東京帝国(当時)大学へ転入しました。大学卒業後は三菱造船(現・三菱重工業)に入社して、神戸造船所に赴任。三菱合資会社に転任して、再び上京します。

1923年(大正12)には職を辞し、文書伝道者としての活動を開始しました。

谷口は、〈日吉学園女子専門学校〉の立て直しを請われたとき、周囲の反対や、自身の迷いを感じる中、「流れのほとりに植えられた木の、時にいたりて実を結び、その葉もしばまざるごとく、その為すところは皆栄える」(詩篇1篇)という聖書の御言葉に出会いました。この御言葉に励まされ、大きな一歩を踏み出すのです。

その年の夏、来日したミラー宣教師に相談したところ、当初伝道を中心と考えていたアメリカ神の教会が、WHOLE PERSON(全人格)として考えるならば教育も伝道の大切な要素ということで援助が試みられることになり、ミッションスクールとしての再出発を期すことができませんでした。

この時代は、戦争で何もかも失い、だからといって空虚を満たす新しい価値観も得られずにいた混乱の世の中でした。院長の谷口も理事長のアイキャンも教育については素人でしたが、こんな時代だからこそ、信じるべきものを指し示すキリスト教教育が果たすべき使命であると信じて、〈玉川聖学院〉はつくられたのです。



創立者 谷口茂寿(1895~1973年)
敗戦後の新しい日本の建設のためには、
信仰に基づく教育が不可欠だとの
強い思いを実現しました。

創立の背景と歴史

1881年(明治14)インディアナ州北部にあるビーバーダムという小さな村の教会で北部長老派の集會が行なわれ、ダニエル・S・ワーナーと協同者たちは、教派主義を「キリストの体を分割してしまった」と痛烈に批判し、あらゆる教会団体からも身を引きました。

ワーナーはベンを持って立ち上がり、同年インディアナ州ローマシティで『ゴスペル・トランペット』という雑誌を発行して、この運動を全米に広めていきました。彼らは「信仰義認(Justification)」「万民祭司」「聖書の権威は十分なものであること」「すべてのキリスト者に対する〈神の召し〉」を主張しました。

日本における神の教会運動を始めた矢島宇吉は、群馬県群馬郡上郊村字保渡田の出身で、群馬県高崎市の教会に出席し、星野光多牧師より受洗。1895年(明治28)明治学院神学部で学び、千葉県松尾村土族の娘若林フジと結婚しました。ハワイのヒロ市にある日本人教会に招かれ、長男 諦一とともに一家三人で赴任しました。1907年(明治40)日本人教会を辞し単身アメリカ本土に渡った矢島は、偶然目にした『ゴスペル・トランペット』をきっかけに、J・D・ハッチ牧師と親交を結びます。母国での伝道に深い使命を覚えた矢島は、1908年(明治41)帰国を決意しました。

アメリカ神の教会のミッションナリー・ボードは、矢島の伝道を助けるべく翌年アレキサンダー夫妻及び、ハッチ夫妻の4人を宣教師として日本に派遣します。矢島は『ゴスペル・トランペット』にならって、『純福音』を発行して全国に福音を広めました。

1927年(昭和2)ミラー夫妻がアメリカに帰国して以後、日本における神の教会運動は、宣教師に頼らず22年間にわたり日本人牧師のみによって導かれました。

1949年(昭和24)谷口は戦災で焼失した本郷から練馬神の教会に移ります。同年来日したアーサー & ノーマ・アイキャン宣教師夫妻は、当初、神田のYMCAの4階に居住して、練馬と戸山の両教会を応援しました。アイキャン夫妻はまた、神の教会の女子中学、高校である玉川聖学院の設立に尽力し、理事長に就任。院長は谷口が務めました。のちに大阪、兵庫にまで伝道の足を伸ばしています。

1945年(昭和20)10月に行なわれた戦後初の日本基督教団常議員会において、谷口は日本基督教団統理の富田満に対し日本基督教団の戦争責任を追及しています。1946年(昭和21)日本基督教団を脱退後、中田羽後の呼びかけにより千葉四街道の〈聖書農学園〉に招かれましたが、練馬神の教会の牧師に就任します。1950年(昭和25)日本神の教会連盟の発足に際しては、初代連盟委員長となっています。

同年日吉学園女子専門学校を買い受けて、玉川聖学院を設立し、初代院長となりました。創立後も、校舎は傷み生徒数も少なかったことから、経営的に苦しいときが続きました。そのため、当分の間、アメリカ神の教会から援助を受けていましたが、それでも足りずに、谷口は最初の2年間はほとんど無給で働いていたといわれています。